

事業名:	少年院を出院した少年の更生自立支援事業
資金分配団体:	公益社団法人 ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	認定特定非営利活動法人 育て上げネット
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	全国
事業対象者:	少年院を出院した少年 ただし、関係性構築の観点から少年院の要請に応じて在院中からかかわる可能性がある

進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年11月14日

[こちらの記載例](#)を参考に作成ください。

また、事業終了時の評価に関する[完了報告書のフォーマット\(暫定\)](#)はこちらです。

I. 事業概要

事業概要
<p>少年院を出院する少年の更生自立にかかる社会的支援がコロナ禍でより脆弱になっていることを社会課題の深刻化と捉えています。</p> <p>本事業では、少年院を出院した少年の生活を支え、更生自立に向けた十分な支援のため[1]生活支援事業[2]相談支援事業[3]伴走支援事業[4]ネットワーク事業を柱に伴走支援事業です。在院中の面会を含め、少年に安心できる相談環境を提供し、個々の少年が抱える諸課題や複雑な困難性を整理しながら必要な制度や施設、居場所となるNPOなどをつないでいきます。</p> <p>また、行政、企業、NPO、地域のひとたちと手を取り合いながら、助けを必要とする少年に個別的、継続的、包摂的な支援を行っていきます。</p>

II. 進捗報告の概要

総括
<p>生活支援事業、相談支援事業、伴走支援事業、ネットワーク事業、それぞれ事業開始時から当初の想定通りの活動ができていると考えています。</p> <p>特に、生活支援事業の中で行っている食糧品や生活物資の提供は、当事者のニーズも非常に高く喜ばれるだけでなく、生活支援が相談員との関係を構築し、相談や他機関へのリファーへと円滑に繋がるためのきっかけにもなっている。</p> <p>また、生活支援を通じて、少年を送り出す少年院や、民間の支援機関との連携が進み、それらの機関が手を伸ばせない支援の要請が来るなど、支援の生態系作りにも良い影響を与えている。</p> <p>引き続き、支援を必要とする若者のサポートおよび関係機関との連携を通じた切れ目のない支援を行うための生態系作りを進めていきたいと考えています。</p>

Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<p>[1]生きていくために必要な食糧等が少年の実情に応じて届けられている状態</p> <p>[2]相談依頼に対して十分な体制で応えられる状態</p> <p>[3]少年が適切な制度や機関に接続し、伴走可能な状態</p> <p>[4]矯正教育および保護分野の行政機関と連絡・連携が取れている状態</p>	<p>[1]目標としている 10 名 100 回の生活支援に対して、10 月いっぱいでは 35 人に対する支援を実施済み。左記とは別に今後 25 人回分の支援を行うことが既に決まっている。</p> <p>[2] 目標としている 10 名 100 回の相談支援に対して、10 月いっぱいでは 91 回の当事者とのコミュニケーションを取っている。</p> <p>[3]学習支援ボランティア、他の NPO 法人のシェアハウスなどへのリファー等、他団体へのリファーを行ったケースを本事業で対応した。</p> <p>[4]各地の少年院のほか、法務省や鑑別所、再犯防止サポートセンターといった公的機関との連携に加え、フードバンクといった地域の支援機関との連携も進んできている。</p>

活動	進捗状況	概要
生活支援	当初の想定を超えるニーズに直面している状態	当初の想定よりも、当事者および他の支援機関からの支援ニーズが多くあり、提供予定分は提供しきれない見込み。
相談支援	当初の想定通りの進捗	支援者がほぼ毎日、いずれかのケース・少年とやり取りしている状態。 少年院との関係性ができており、少年院出院前から当事者と接点を持てるケースが多い。事前に接点があると、出院後スムーズに支援に繋げることができるため、支援の選択肢を広く取ることができる。
伴走支援	いくつかの事例で他の支援団体と連携事例が生まれている状態	出院後、生活拠点となる家宅がない少年を支援するために、シェアハウスを運営している NPO と連携して居住機能を確認するなど、他の支援機関に当事者のサポート引き継ぐことで切れ目のない支援を行っている。
地域における支援ネットワークの構築	計画の想定を超える展開	フードバンク立川と立川社協に本事業の取組を紹介したところ、フードバンク立川から米の提供を受けられることになった。 加えて、地元農家を紹介いただき、野菜などを提供できるかどうかを打診したところ、JA とも交渉する機会を作ることができた。 地域で、少年をより手厚くサポートしていけるよう、支援ネットワークの拡充を引き続き続けていく。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述

- ① 少年院を出院した少年と繋がり、個別・継続的に伴走している状態
生活支援に取り組んだことで、少年院を出院した少年たちとの繋がりを作ることができた。当事者にとってわかりやすい形での支援から始めることで、自然な形でその後の関わりも続けていけるようになっている。引き続き、支援を必要としている当事者との生活支援を起点として関係づくりの質を上げていきたいと考えています。
- ② 出院した少年の困難が解決されている状態。仕事・教育・医療・福祉など、適切な機関や制度、NPOなどと繋がっている状態
出院後、定住できる家がなく、生活が不安定化するリスクの高い若者を、宿泊機能を持っているNPOにリファーするなど、当事者のニーズにあった支援を行っている支援機関との連携が始まっている。引き続き他団体との連携を進めていきたいと考えています。
- ③ 少年を包摂する社会資源ネットワーク(少年院、NPO等)が十分に形成された状態。本事業で連携している少年院（東京・大阪圏）以外の少年院と連携が広がっている状態。
法務省、法務少年支援センターといった公的機関との連携は本事業開始前から行われていたものの、本事業を進めていくにあたり、より緊密な連携が進められている。また、地域内の様々な民間事業者（JA、フードバンクなど）とのネットワークも新たに形成されつつある。引き続きネットワークの強化を進めていきたい。
- ④ 本事業の活動が継続的に行える資金が確保されている状態
次年度以降の事業を担保する資金の目処については不確定な部分が多い。引き続き、資金源の確保に努めていきたい。

V. インプット

		2021年度	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥5,485,000	¥2,564,990	46.76%
	管理的経費	¥1,360,000	¥659,595	48.50%
合計		¥6,845,000	¥3,224,585	47.11%

補足説明	2021年10月分精算まで
------	---------------

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

少年院への求人数（協力雇用主）がコロナ禍で減少した。
少年院内で就職活動を行っていた際、過去に採用実績のある企業へ応募を検討していたところ、コロナ禍の業績悪化を理由に求人票の取り下げとなった企業があった。少年はリフォーム関係の仕事を希望していたため、応募先を同業種の他企業へ変更して対応した。

VII. その他

自由記述

既存の更生支援の枠組みでかねてより支援を続けて来られた保護司や協力雇用主等とも連携が広がっている。そんな中、私たちが出会ってきた保護司や協力雇用主は、他の支援団体と連携するよりも独力で少年たちと関わられているケースが多かった。志を持った支援者ばかりであるが、個人の力では経済的・精神的にも限界があるため、例えば、地域若者サポートステーションや自治体が運営する相談機関（弊団体も運営しています）ももっと積極的に守備範囲を広げ、連携していく必要性を感じる。そこで、生活支援は連携ネットワーク構築のための良いきっかけとなっている。食糧を送るといった分かりやすい支援は、少年だけでなく、少年を取り巻く支援者にとっても利用しやすく、支援の初段階で繋がれるツールとなっている。

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	有	法務少年支援センター、少年院、支援機関（NPO等）に対して、本事業の取組を紹介するチラシを作成し、配布している。
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	定款の定める通りに開催されている 総会：2021年9月30日 理事会：2021年9月29日	理事会：議案 ①第17期（令和2年度）決算報告書の承認に関する件 ②第18期（令和3年度）活動予算書の承認に関する件 社員総会：①・②承認報告
2. 内部通報制度は整備されていますか。	整備されている 制定日：2020年6月1日	不正行為の未然防止、早期発見及び是正を図り、もって、コンプライアンス経営の強化に資することを目的とする。